



管理運営計画市民委員会

市民ホールかわら版

第2回「事業計画」～市民ホールでやってほしいこと、やってみたいこと～

8月5日、小田原市の大会議室にて、第2回市民ホール管理運営計画市民委員会が行われました。第2回は市民委員26名、(女性7名、男性19名)、市の事務局スタッフ11名、その他の事務局スタッフ3名、市民ホール管理運営計画専門委員会から市来委員、桑谷委員の合計42名が参加しました。昨年度に行われた市民ホール基本計画市民検討委員会から引続き、本年度は管理運営計画について、4回にわたり市民の皆さんと検討を行います。

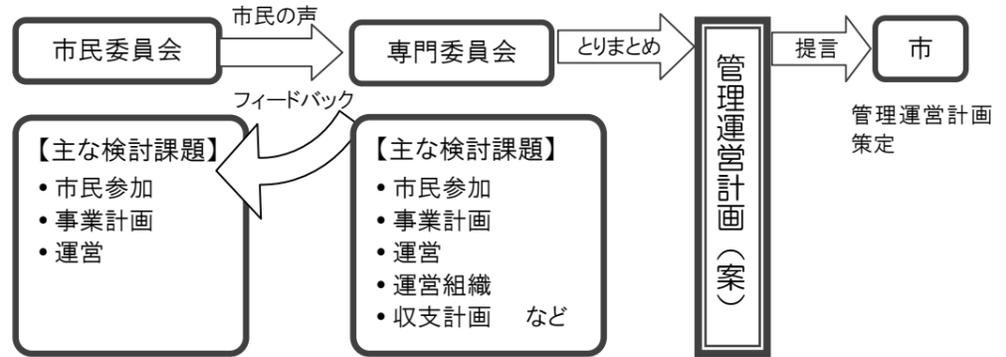
市民ホール管理運営計画市民委員会とは？

小田原市では現在、平成28年度の市民ホール完成に向けて、整備を進めており、これまで、平成22年度に基本構想、23年度に基本計画を策定しました。

24年度は、市民ホールを芸術文化創造の拠点とするための運営システム、事業計画及び市民参加のあり方等の方向性について定める、「市民ホール管理運営計画」を策定します。

管理運営計画の策定に当たっては、多くの市民の皆さんからご意見を伺い、管理運営計画の参考とするため、ワーキング形式の「市民委員会」を開催します。

市民委員会は、様々な立場や視点による市民の声を集約していく場とし、いただいたご意見は、文化施設や文化活動に関する専門家で構成される「専門委員会」でさらに検討を重ね、計画案として形にしていきます。



市民ホールでの事業について

市民ホールでは、基本構想で定められた右記の「7つの事業の基本方針」に沿って事業を展開していきます。今回は、市民ホールが行っていくべき事業について、具体的にどのようなものが考えられるかを話し合いました。

そだてる〈育成普及〉	育成事業	活動を行う芸術文化団体の支援・育成や、次代を担う世代を育成していく事業などを展開します。
たのしむ〈質の高い催し〉	鑑賞事業	多様な芸術文化の鑑賞機会を提供し、感性豊かな市民を育てていきます。
つくる〈市民参加〉	参加事業	広く市民を対象とし、市民が中心の作品創造の機会を提供します。
つたえる〈地域特性の発信〉	地域発信事業	小田原の地域資源を活かし、小田原ならではの創造活動を行っていきます。
出会う〈交流促進〉	交流事業	芸術文化を通じた交流の場を提供し、新たな文化や交流が生まれていくことを目指します。
にぎわう〈にぎわい創出〉	にぎわい創出事業	市民が気軽に集う憩いの場となり、芸術文化を通じたまちづくりの拠点となる事業を行っていきます。
ひろげる〈利用促進〉	施設提供事業	市民の活動内容や利用形態に適した運営規則を作成し、市民ホールの施設を広く貸出していきます。

発表概要

1 班



文化の拠点としての役割に重点をおき、小田原に今ある文化や活動を更に昇華させるような活動が求められました。

- ◆若い人々が自分も関わりたいと思える鑑賞事業
- ◆シネコンではない定期的な映画の上映会
- ◆小田原中学校合同音楽祭
- ◆近隣の小中学校を一同にした文化祭
- ◆造園環境美学、ガーデニングコンクールなど
- ◆歴史に関わるシンポジウム、アーカイブなど
- ◆小田原ふるさと大使の芸能人との関わり
- ◆西湘地区まで含めた情報発信の基地となる
- ◆創る人、鑑賞する人など、目的を明確にしたカレッジ、アカデミーを作る

2 班



小田原の文化資源を大切に、老若男女が交流しながら、後継者に継承していけるような事業が求められました。

- ◆これからの小田原を支えていく芽を育む情操教育
- ◆小中学校と連携して事業を行う
- ◆小学生対象の劇場マナー教室、技術塾など
- ◆地域の知恵をもったお年寄りとの交流
- ◆国際的な音楽祭の開催、国際交流を含めた交流
- ◆地域の文化を鑑賞する機会
- ◆視覚障がい者や車椅子の方が参加できるイベント
- ◆地場産業をとりあげる
- ◆まちなかや祭りと連携しての賑わい創出
- ◆既存施設や近隣ギャラリーと連携しての巡回展

3 班



ホールで完結するのではなく、まちや商店街、他の施設と親密に関わりながら事業を行っていくことが求められました。

- ◆子どもを対象としたワークショップ事業
- ◆小田原著名人ワークセミナー
- ◆小学生の音楽教室をホールに設ける
- ◆現在の活動団体が子ども向けアウトリーチを行う
- ◆地域のものとして、歌舞伎の曾我もの上演
- ◆市民ホールの兄弟館をつくり巡回公演を行う
- ◆技術ワークショップや実地制作などの体験事業
- ◆ホールのオープニングに合わせて千人太鼓
- ◆ホール、広場、お堀端と一体になった催し
- ◆大外郭を含めて小田原の歴史を学ぶウォーキング

★★★専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★★★

市来委員 ～人材育成事業の必要性と効果～

- ◆ 事業を企画する人材を、育成事業で育てていくことが必要です。
- ◆ 育成事業の成果が出るには、5年、10年といった長い時間がかかります。専門家の指導を受けながら、試行錯誤してやっていくしかありません。長いスパンで考えてください。
- ◆ 実際に、世田谷パブリックシアターで高校生のための演劇ワークショップを受けた生徒が、アルバイトとして入った後、シアターに職を得てワークショップを企画しています。
- ◆ 世田谷パブリックシアターで育成事業を行う上で良かった部分は、作品を創る現場がすぐ側にあるため、プロの活動を近くで見ながら学び、自らも実践できる場があったことです。
- ◆ 創作と育成の両方を同時に取組んでいくことが、長期的な意味でのホールの活性化に繋がります。

桑谷委員 ～地域や子どもに開かれた事業～

- ◆ 近年、公立劇場の役割に対する考え方が、従来の「鑑賞する施設」から変わってきました。これからの公立文化施設は、教育・福祉について「生活文化の視点から公立文化施設にできること」を考えねばなりません。
- ◆ 座・高円寺では、「鑑賞」「育成」「普及」「地域活性」の4つを軸として事業展開を行っています。
- ◆ 事業を提案するには、理念、方針、計画に沿わなければなりません。座・高円寺の場合は「地域と劇場」を理念とし、「広場のような劇場」というコンセプトで、子どもから大人までもが楽しめる劇場を目指しています。
- ◆ 事業計画はあくまで「計画」であり紙に書かれたアイデアです。それを実現、成功させるのはスタッフ次第です。

【プロフィール】 市来 邦比古 氏

世田谷パブリックシアター前技術部長。昨年度の基本計画策定から引続き、管理運営計画専門委員を務める。演劇の音響プランナーとして40年以上の実績を積み一方、各地の劇場ホールづくりに専門委員、コンサルタントとして携わる。

桑谷 哲男 氏

杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」館長。昨年度の基本計画策定から引続き、管理運営計画専門委員を務める。舞台照明家としてスタートし、公立文化施設で舞台技術チーフ、テクニカルマネージャー、館長等を歴任。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

皆様のご意見はふせんに書込み、各班でワークシートにまとめました。
ここでは、皆様のご意見を全てご紹介します。

1 班

【育成事業】ホール案内係の若者の育成(バイトとして成り立つ様)、文化サポーター(レセプションシニスト)は主婦の方が多く時間的なこと、経験の差がありニーズにあわない時もある/ダンス部、演劇部等の学校の部活動から若い人たちが参加できること/文化をささえる人材(専門家、市民)の育成が必要、ワークショップ事業/催し物を行うための練習の場所(小学校など借り等)、市民が使いやすいシステムをつくる/おだわらミュージックカレッジ、音楽リスナー講座、アート/舞台技術ライセンス制度 C 級中高校生(野外コンサート)、B 級成人(ホールの補助)、A 級プロ(ホールが使える)/舞台技術カレッジ(スクール)、音響、照明、ディレクター/小田原芸術大学ができる方向でそだてる機能を高めていく/講義、ワークショップを大学、高校などとタイアップし単位とする/舞台技術テキストの発行/地域の小・中学校、高等学校との積極的な連携を行う/ホールオープンの 5 年後に高校演劇全国大会を小田原に招致する→それまでレベルアップのため、定期的なワークショップを行う→高校生が演劇が好きになる→大人になって劇団をつくる→小田原の演劇人口が増える→全国の高校生があつまれば、まちのピーアールになる。まちづくりに貢献/小田原クールリスナー講座(評論の講座)

【鑑賞事業】小田原アコースティックライブ、一流アーティストに自然素材だけのコンサート、アート。アコースティック・ライブと提携/若い人が自分もやってみたいと思う気持ちになれるような鑑賞事業/地元のプロの音楽家達の出演による音楽祭の開催/定期的な「寄席」を開催(昔、小田原にも寄席があったそう…。かつて円生 etc も来た。若い落語ファンも少なくない…。)/映画の定期的上映。シネマトーク的展開。(シネコン的でなく)テーマをいくつか設定する。(「懐かしい名画」「音楽を聴く映画」etc)/専門委員会の委員の方々が関わる舞台、コンサート等のイベントの出張公演をレギュラー的に行う

【参加事業】小田原中学合同音楽祭(各校のコーラス上位クラス、ブラバンの発表会)/企業対抗アートフェスティバル(一位は減税)/全市、近市の小学校、中学校を一同にした文化祭を開催/市民会館友の会 ・演ずる側の友の会 ・受ける側の友の会 ・会費を取りインセンティブを与える→運営サポートになる

【地域発信事業】「おだわらものがたり」の創発(ベンクラブ、文学団体の協力)/小田原提携アートフェスタ、野外アート+造園+環境美学+ランドスケープ/西湘地域全体での「まつり」をつくる、あしがらアートフェスティバル+〇〇/ガーデニングコンクール/コンクール、コンテスト、コンペティション→参加者のモチベーション高める/「市民ホール」というスペースは、県西エリア(及び静岡東部)のアート、カルチャーの活動の中心である、という位置づけ。つまり、広くそれらの地域の人々を引き寄せるようなコンテンツを構築し発信/小田原の「文化的アーカイブ」を見たり聞いたりすることのできるライブラリースペース(レガシーを共有する)。但し、そのソフト自体には何が？(その発掘、整備を行うのはとりえず「文化部」か？)/自分は地元小田原北条手作り甲冑隊のメンバーであります、この隊の宣伝、アピール性を高めるために HALL を利用して小田原城の歴史と文化を知らしめるイベントを企画し、小田原市全体のイメージアップをすすめたい/小田原ラフタークラブのメンバーであるので、笑いの効用を知らしめるためにホールでの活用を目指したい(ラフターヨガ・ジャパンの会員)

【交流事業】「歴史に向き合う」をテーマに(ビエンナーレ形式で)史跡での野外展示会を開催する/文化フォーラム、単なるパネルディスカッションではなく、会議的な機能も持たせる/自治会対抗芸能大会(一位に市より交付金)/自宅、本棚に眠っているプログラム、パンフレット等あつめ、資料室みたいなものを作る/この「市民ホール」は小田原の文化芸術の全ジャンルの情報センター、アーカイブ、ライブラリーとしての場所でありたい(ここでほぼ分かる、とか…) /市民会館だけでなく、小田原の文化活動の全てを集約した情報発信基地とする

【にぎわい創出】小田原の良い食材を使ったおいしい料理が提供できるカフェやレストラン事業/小田原でたくさんある「祭り」を整理して、発進力ある事業にまとめる。高円寺 4 大まつりのように/若者むけのオタク文化(アニメ、まんが、コスプレ等)のイベントがあってもよいのでは/小田原にアキバを/小田原「コミケ」/ふるさと大使の方にホールイベントに参加してもらう/稼働率を大ホール、小ホール、スタジオ各々について週末と週日で月毎に明確に表示する

【施設提供事業】小田原の公共施設での年 1 回以上のイベント義務化(施設スタッフのボーナスに反映)/ライブ録音が可能ホールとする(良質の音響環境とハードの充実)/市民ホールに集まるお客さんの行動、経済力 etc を考えると観光的な要素も出てくる→小田原のツーリズムの戦略の問題になる? /人をほめる、人をたたえる、新たな小田原文化を作っていく

3 班

【育成事業】【現在】将来のホールの担い手を育成するワークショップ/子供に向けた伝統芸能のワークショップ、アウトリーチ/小田原著名人のワークセミナー「小説家になるには/映画業界に入るには」etc 学生対象/【開館】子供にとって…家で学校でもできない経験・体験をワークショップで！(スタジオ)/ホールで小学生の音楽教室を出来ないか? /将来を見据えて「二宮尊徳」の教訓を継承して、学習の催しを計画的に企画してほしい! /市民オペラ。

オケ・ソロはプロ、合唱は市民で開館時に出来るように/【短期】声優口演(サイレント映画に声をつける)を一般市民により台本からつくる/映像・映画のワークショップ、町や商店の CM 作り etc/【中長期】Café をチャレンジショップとして数年で独立してもらう

【鑑賞事業】【現在】天幕上映会、天草上映会/ホールの技術者養成を今から始める/文連等、今活動している団体も子供向けに積極的にアウトリーチする/歌舞伎、管絃、音楽、演劇の鑑賞の仕方を学ぼう。小学生向きワークショップ/楽器を楽しむ子供向けの音楽会/【開館】市民演奏団体の質の向上をはかる企画を/小田原文学の読み聞かせ→録音→バリアフリー書籍、電子書籍化/藍坊主の凱旋ライブ/市民による演奏会、音楽を身近に/30~40 代が興味を持つ事業を企画する/県知事と共催で「歌の文化」の面で名曲「50 選~100 選」を披露しあひ地元の文化の発展に繋げたら?! /【短期】前庭での野外コンサート/年 1 回、ブラックタイ着用位の品格のあるガラコンサート/【中長期】兄弟館等のリンクを作り、巡回公演を企画

【参加事業】【現在】小田原囃子等おひろめ会、その他湯河原や箱根含め/バックステージツアー(親子で)公共施設探検! /【開館】「開館オープニング」にホール、お堀端通り、二の丸広場一体型の空間を楽しめる催し/美術のワークショップ。実制作の場、ミニ体験/【短期】コンセプトual 写真コンテスト、杉本博司

【地域発信事業】【現在】小田原各地区のアピールウォーク、戦争体験談、アーカイブ映像/【開館】「開館発表」郷土の偉人の二宮尊徳の教訓を歌に託した教訓歌、「二宮尊徳奉讃歌」作詞・作曲・歌 市川美都江(地元で活動)/「千人太鼓」元気の発信。プロ、アマ、市民が心ひとつに/【短期】小田原文学堂→シナリオ化→映像化→コンテンツツーリズム/歴史を学んで小田原のニューブランドの創造ワークショップ→商品化 etc

【交流事業】【現在】小田原城外郭を小学校の遠足で歩く、模型を作る/各々の特技を持った「芸の道」で地域住民の方々、老若男女が一同に結集して「親睦と交流の和」を持って楽しみ、生きがいを持ってもらう/【開館】市民サークルのグループ展(公共 PR 付き!)/林英哲盆踊り大会/友だちが増えるイベント(子供間交流)/子ども対象、大人対象ではなく、一緒に過ご一緒にワークショップをする企画、発表会がやりたい/【短期】小田原在住文化人リレートーク週間、作家、画家、音楽/失われていく伝承遊びやわらべ歌は公園からは広がらない今、舞台発表という場を使って残していきたい/【中長期】小田原につたわのお話を、子ども大人一緒に演じ、小田原を知るきっかけにしたい/絵画をプロジェクターで舞台に、その前で歌・音楽の芸術コラボレーションの企画

【にぎわい創出事業】【現在】酒博/ミュージックストリートを月 2 回開催する、回数を増やす/【開館】アートマート(井の頭公園で行われている)、夜市、白楽/街なか大道芸/【短期】アートフェス 今ある物にプラスし、空き店舗の利用や小田原以外の作家、企業、映像 etc/小田原城下町ランウェイ(和のファッションショー、その他、お化け)/【中長期】ガンダムフェス(ジオラマ展、ジオラマワークショップ、シンポジウム、原画展、イラスト展、クイズ大会、ゲーム大会)、コンテンツ事業/ゆるーい歴史のお祭り(イラスト展、コミケ etc)

【施設提供事業】【現在】春と秋に市の文化祭を分ける

【その他】大ホールの室の壁はなるべく木材を多くして/使用料の安定性、利用者側にたつて「採算」の見合った使用料の算定成り立つように利用できるようにしたい! /めだかの学校、市役所にあるように市民ホール周辺の子どもたちに飼育してもらう/ネーミングライツ、市民ホールキャラ?によるコンテンツビジネス

2 班

【育成】子ども(段階的に)対象の鑑賞会(劇場でみること)/子どもたちに劇場マナーを長期的に教えていく/子ども対象のイベントをたくさん行って長期的に養成していく/プロを育てる学校 ・プロなみを育てるコース ・趣味コース(既存の美術団体との関わり)/小中学生美術塾/学校の美術教科での見学会(授業の一貫)/アートマネージメント講座を常時開催して人材を育てる/大学生のボランティア、単位の対象とする/文化サポーターの育成と増員/小田原在住・出身の新進美術家の育成(制作、発表、助成金)/常設美術学校、休日型、平日型、夜間型/ジャンル別に各学校への出張教室を行い、芸術文化に触れさせる

【参加】予算がないなら市民ボランティアの活用と参加/劇場・音楽堂事業に偏らない/館内の案内などボランティアで参加/身近なものを使って子どものアートづくり、ボール紙、紙 etc/車椅子でも参加できるイベント、たとえば音楽/ビジョン→市民参加→事業→運営の一貫性の確保/毎月 1 回子どもたちのコンサート

【地域発信】モノづくりという伝統工芸となってしまうが、新しい時代の小田原らしさの創造の小田原ブランド展/定期発行情報紙 ・わかりやすいウェブサイト(きちんと更新)/ホールの中に芸術文化発信のスタジオをつくる/ホール美術展示の地域公民館への巡回/「小田原美術」誌の発行/地域の偉人の展示会/小田原ブランドの発信をギフトショー(ビックサイト)にて発信する/我が町内のお宝がし。町内に関心をもたせる

【交流】全館交流フェスティバル(バラバラに各施設が集まるのではなく、施設交流を企画すること)/市内ギャラリーの共同展(連携、それぞれが企画したものをまとめる)/既存(松永、清閑亭、文学館)施設との美術展ネットワーク/地方への巡回展 ・地方からの巡回展(同レベル) ・国や県からの巡回展(上位)/このような人がいてこのようなことをしていった、そういう人物的イベントを/小田原国際音楽祭/城山、又は久野ミュージアム・トレンの設立とその拠点(出発・帰着)

【鑑賞】地域、小田原在住、小田原にかかわりのあるアーティストの展示会やコンサート/小田原にかかわる、又は在住するアーティストの展示会、コンサートを行う/子どもたちに本物の舞台芸術をみせる/世界的な奏者を呼ぶ。300 名を 2 回公演で。例:世界チャンピオン口笛コンサート/おだわら賞美術展/おだわら賞屋外彫刻展/おだわら賞モダンアート展/旧市内に映画館が無いので市民ホールで定期的に映画会を催してもらいたい/子どもの絵本を読む企画!アーティストにお願いする/箱根ジオパークは今年中に認定されると思いますが、一般的な知識を市民ホールで講座を聴いてもらいたい/視覚障がい、聴覚障がいのある方々への美術展示(解説やさわる展示など)/美術作品の収集と収蔵。収蔵品の常設展示。/小田原在住、または出身の(一流)美術家の情報・作品収集/音楽、演劇、ダンス(舞踊)、寄席などの独演会

【にぎわい創出】市民ホールにまちなかつなぎの仕組み/外部のオープンスペース(十分に確保)でのオープンエア美術展/ホール前で地場産などのフリーマーケット/まちなか商店街の活性化(連携を計る)/ホール周辺で大道芸などパフォーマンス/美術や劇場目的でなくても利用(安価にかつ気楽に)できるスペースまたは席/町の「まつり」との連携(年間計画で)/回遊ルート(観光客ばかりでなく)との一体化事業/子どものあそびば、たまりば

【施設提供】市民の利用優先(料金、予約…)/入場料の割引、年少者(特に無料など)、高齢者、障がい者/生涯学習センター、公民館との法的根拠の違い→制約や可能性があるか? /教えること! 学べること! けやきとの関連は! /現在、キャンパス小田原(けやき)で小田原城物語の講座を開いているが、これをホールで取り扱ったらどうか(場所的な同類)

【バリアフリー(全てに共通)]点字ブロックの色は黄色にして下さい/視覚障がいの方のためのコンサート、昔流行した音楽など(50、60 年前に流行したもの)/トイレのバリアフリー/「オストメイト」(人工膀胱)の設置/障がい者用の駐車場の拡充/レストランや販売所の充実/視覚障がいの方々に届く広報/視覚障がいの人は外に出る機会がすくないので、そういう方が参加できるイベントの創出/視覚障がい者、緊急のことがあった場合、文字でお知らせできるシステム

【全般】既存事業の新ホールでの可能性の検討/「劇場・音楽堂」でかたまってしまった現状に対し、ハコにこだわらずに「事業」で文化拠点の使命を達してほしい/「ハコ」の外で行う事業も充実させる/いつの間にか「劇場・音楽堂」になってしまっている。ビジョンの理念の「拠点」機能をいまいちど思い出して展示系について同等に考えること/雇用創出(専属プロ、専属運営スタッフ、専属管理スタッフ)を確保(既得権にこだわらない)/けやき、マロニエ、いそぎなどとのすみわけを明確に/文化振興法(ビジョンレベル)→劇場音楽堂活性化法(計画レベルで市民ホールはどのように関わる(規制される)か?)/既存市民会館利用(会議室や市民活動サポート…)はどうか→新ホールで? /「拠点」としての自主事業の充実(または招待や招聘)

【イベント(全項共通)]昔、おも城 OASIS というイベントを創造した。小田原の商店の参加(販売)と、小田原らしさ、ちようちんの発想から小田原ちようちんの作成(小田原市内の小中学生)(現あかりの祭典として残る)、竿灯ねぶたの運行、市内各所での野毛の大道芸、小田原城内での骨董市やボートの再現 etc.ひとつの大きなイベントの小田原らしさの創造/(たとえチケットが高くても)一流アーティストやミュージシャンも定期的に呼ぶ/市民文化生活としてエコとか電力とか最先端のコンベンションの発想のイベント/情操性のある子どもとのふれあい企画

【美術館について】小田原に展示のできる場所はないということになる(ホールはギャラリー)。別に展示ということをしかりとしなければ。展示は神奈川県下では非常に素晴らしい人を輩出していることなので。このホールには学芸員等は存在するのか/小田原らしさ! 展示館としてお蔵をついたら。郷土文化館のような小田原地域にあったものと、現代のイベントを行うイベントホール

管理運営計画市民委員会 今後のスケジュール

開催日時	場 所	テーマ(予定)
シンポジウム (6/17) * 終了		
第 1 回 * 終了	7 月 22 日(日) 10:00~12:30	市役所 7F 大会議室 オリエンテーション 市民参加
第 2 回 * 終了	8 月 5 日(日) 10:00~12:30	市役所 7F 大会議室 事業計画
先進事例視察 (8 月 24 日) 神奈川芸術劇場 (KAAT) ・横浜市磯子区民文化センター杉田劇場		
第 3 回	9 月 9 日(日) 10:00~12:30	市役所 7F 大会議室 運営
第 4 回	10 月 21 日(日) 10:00~12:30	市役所 7F 大会議室 取りまとめ
市民委員と専門委員の意見交換会 (11 月予定)		